

第6回市長と話そう会

日 時 平成29年5月9日(火)

16:00～17:30

場 所 黒髪山陶芸作家村 桃林窯

参加者 黒髪山のはしごランチバル役員



市民の皆さまと市長が直接語り合う『市長と話そう会』第6回目は、黒髪山のはしごランチバル役員の皆さんとの意見交換でした。

一つのテーブルを囲み語り合うスタイルで行われた会では、それぞれの思いやビジョンなど、多数の活発な意見をいただきました。

内容を抜粋して掲載しております。

《掲載にあたり、一部個人のプライバシーに関する部分などは省略しております》

■意見交換

(参加者)

黒髪山のふもとは、20年ほど前から陶芸や食事を提供する個性的な店舗が増えてきている。昨年10月には初めて「ランチバル」を企画し、生憎の天気にも関わらず多くのお客様にお越しいただいた。このランチバルを通して、それぞれがバラバラに情報発信するのではなく、合同で発信したほうがより効果的だと気付いた。今日集まったメンバーもそれぞれがこのエリアについて思いがあり、今日はそのような思いをつなげていく機会とさせて欲しい。

(市長)

テーブルを囲んでの語りの場というのは大変うれしい。まずは皆さまの思いを聞かせてほしい。

(参加者)

このエリアには温泉もあり当初の計画より小さくなっているが、お客様は多い。しかし訪れるお客さまは、温泉だけで終わっている。また温泉があることも近くの方にはあまり知られておらず、お知らせして欲しい。

(参加者)

このエリアに移住し開業していただけるよう色々な方にお声かけしているが、なかなか移住につながっていない。常時お客さまを呼べる核となる施設、例えば有名リゾートホテルなどを誘致してはどうか。またこのエリアの魅力である景観を損なわないよう、和風建築などに絞った規制をかけてはどうか。この地域は修験者の山として歴史もあり、修験者体験などを行っていくこともあり。これらは外国人観光客には訴求すると思われる。そのほ

か観光によった企業家を誘致するなどもアイデアとしてある。

(参加者)

有名リゾートホテルは事業を拡大する動きもあるようだし、北海道でアウトドアメーカーとタイアップしてのグランピングなども行っている。ぜひ誘致して欲しい。

(参加者)

個性的な窯元や食事を提供する店舗が多いので、もっと若い方にも来て欲しい。2代目がいるところも少ない。

(市長)

今、各窯元・店舗を訪れる方はどういった方が中心か。

(参加者)

訪れる人の多くは子供に手がかからなくなった50歳代から60歳代が中心。友人同士2〜3人のグループで訪れる方が多い。

(市長)

このエリアは山・温泉・陶芸と素晴らしい素材をもっており、その素材は某県某町にも勝っていると思っている。また昨年のバルは大変良い取り組みだった。この地域は器と食が結びついて、ただ器を打っているのではなく、ライフスタイルを提案、生活を豊かにする提案をされていると考えており、その方向に特化してはどうか。有名リゾートホテルの誘致の話もあったが、東京などで増えているゲストハウスなども良いかもしれない。

(参加者)

和食器には無限の広がりがあり、器を通して伝えたい文化はたくさんある。若い人にそれを伝えていきたい。

(参加者)

月に一度でもなんとなく訪れたいような街づくりをしていきたい。

(市長)

量より質を求める時代になっている。ここでしかできないこと、豊かなライフスタイルの提案を行って欲しい。昨年実施したバルを続け、広げて行って欲しい。

(参加者)

窯元・ギャラリーというものが敷居を高く感じる方も多い。バルなどをきっかけに敷居を下げていくべき。また、市としても情報発信できるような情報をまとめ吸い上げる仕組みが必要。毎日の情報発信が必要。

(市長)

このエリアの将来像について一度関係者みんなまで話をし、方向性を確認してみてもどうか。今後も、このようにお話しをする機会があれば参加させて欲しい。